

第2章 めざす環境の将来像と基本目標

ささやま 源流のまち篠山

～命をはぐくむ豊かな森と水を未来につなぐ～

【この環境像を掲げた想い】

篠山市は、瀬戸内海に流れる加古川¹・武庫川²、そして日本海に向けて流れる由良川³という三本の河川の源流地域に位置する、類を見ない環境にあります。

市内の様々なところを流れている清らかな水は、周りを取り囲む山々から流れ出で、群れ泳ぐ魚や飛び交うホタルなどの水辺の生きものをはじめ、水稻や黒大豆・山の芋など多くの農作物や他の植物、牛や鶏などの動物、そして私たち人間の命を育んできました。

いわば、水はすべてをつなぐ「環(わ)」の始まりであり、源であると言えます。

その清流を守り育てることは、あらゆる生きものの命を守ることに欠かせない要素の一つです。

また、この地が海へとつながる長い道のりの始まりになっていることから、我々は下流域の人々への責任を負っていると言っても言い過ぎではありません。

篠山市の特色であると同時に宝でもある豊かな自然を守り、そして子どもたちや未来の篠山市民により良い環境をつないでいく役割を認識するために、この将来像を掲げます。

次の頁には、篠山市を源とする河川の図面を添付します。

また、この環境像を実現するための【4つの柱＝基本目標】をその次の頁に掲げます。

¹ 加古川：兵庫県南西部を流れる一級水系の本流で、兵庫県の河川でも最大。

² 武庫川：兵庫県南東部を流れる河川。二級水系の本流。

³ 由良川：京都府北部を流れる一級水系の本流。若狭湾に流れる。

篠山市を起源とする加古川・武庫川・由良川水系の分布図



【4つの柱 = 基本目標】

基本目標 1 (自然)

自然の豊かな恵みを実感できるまち

篠山市の環境を考えると、どこを見ても目に入る自然を欠かすことはできません。

豊かな緑と、流れ出る水、澄んだ空気。そこには小鳥が唄い、ホタルが飛び交い、メダカが群れ泳いでいます。それらの息吹を実感しながら、同時にこの自然が、今に生きる我々だけのものではないことを認識する必要があります。

また、既に失われつつあるもの、荒廃してしまったものにも目を向けなければならず、それらをどのように保全・再生していくかということも考えなければなりません。

そのためには、自然の豊かな恵みを実感することにより自然を守る心を育てること、自然の豊かさや多様性を維持しながらも市民生活との調和を図ること、命を大切にし次世代に安心して引き継げる安全な自然環境を残すことを目標とします。

未来の篠山市にも、今以上に豊かな自然環境が存在すること、それが私たちの願いであり、責任であると考えます。

基本目標 2 (学習・教育)

豊かな“こころ”を未来につなぐまち

私たちの生活は昔よりも便利で豊かになりました。その一方で、地球の環境は悪化し続け、様々な問題を引き起こすようになってきました。また、私たちの住んでいる篠山市でも、森や川に親しめなくなり、私たちの身近な環境にも大きな影響を与えています。

現状を変えるためには、人々が、それぞれの意識を変えることが大切です。そのために環境について学ぶことは非常に大切であり、子どもたちだけでなくあらゆる世代や立場の人が環境について学び、考える機会を得ることが重要となっています。

学び、考えるためには、環境“教育”も大事ですが、自ら学ぼうとする“学習”の気持ちを持つことが最も効果的なことです。

そうして自ら学んだ、環境に優しい“こころ”を未来につなげるために、学校で、地域で、企業で、そして行政で環境学習に取り組み、それぞれの役割を全うしたいと考えます。

基本目標3
(農業)

環境と農家の営みが共鳴するまち

篠山の農業は、周囲を取り囲む山々から流れ出る加古川・武庫川・由良川という3河川の水系によって大いなる恵みを受けながら、先人たちの絶えまぬ努力によって支えられてきました。

同時に、人々は、農地やため池などの里の地域と一体となった里山に、薪炭の材料となる木々や山菜を採りに入り、自然と共生してきました。

しかし近年、農家の高齢化、野生動物による食害の頻発などに伴って遊休農地が増加し、また、化石燃料使用の拡大により薪や炭を使うことが少なくなり、里山に手が加わらなくなるなど、基幹産業である農業、そして里山を含めた農村をとりまく環境は変化してきています。

このような中、市民みんなの手によって、古くからの人々の生活に根ざした独自の風土や農村文化を再評価するとともに、現状にあった手法で篠山らしい環境に配慮した農業を進めていきたいと考えます。

基本目標4
(生活)

自然の恵みが循環するまち

人間が生活するのに大切な、空気、水、食料、エネルギー。

篠山市には、その4つを産み出す自然があります。

わたしたちがその自然を大切にするとともに、恵みを循環させながら生活することで、持続可能な循環型社会に近づくことができます。

今の暮らしは大量生産・大量消費のライフスタイル⁴が定着しています。わたしたちは日々の生活を営むことによって、環境に何らかの負荷を与えていることを認識する必要があります。

一人ひとりが、今の暮らしを見つめなおし、地道な取り組みを始めることは、豊かな生活環境を守り育むために重要なことの一つです。その取り組みは難しいことでなくても、誰もが自分にできることを考え、一歩ずつ、確実に、そして継続して行うことで、自分自身の生活環境を快適に、そして将来はみんなが住みやすいまちをめざしていきたいと考えます。

⁴ ライフスタイル：生活様式のこと